

三重の木を使おう、
森を育てるために

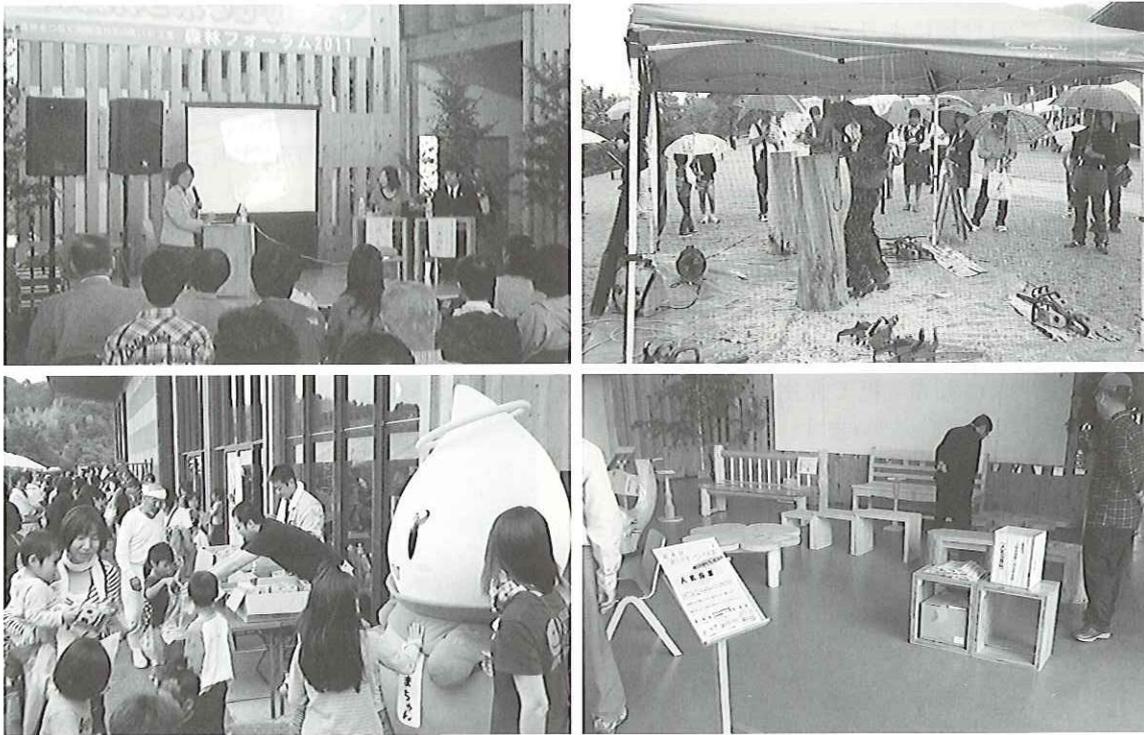


木をよく
知ろう

木と
もっと
親しまう

木を使おう

三重の林業



三重の森林と木づくりフェア (10月15日) (熊野古道センター)

目次

2011年11月
No. 365



INTERNATIONAL YEAR
OF FORESTS 2011

森を歩く。
2011年は、
国際森林年。

森林政策情報	平成23年台風12号による林野関係の被害と対応	2
話題を追って	亀山市立関中学校が農林水産大臣賞を受賞	3
話題を追って	津市森林セラピーの取り組み	4
話題を追って	多気町に三重県産材を使った老人福祉施設が完成	5
話題を追って	学校林を活用した林業体験学習	6
話題を追って	尾鷲ヒノキを都心に供給	7
話題を追って	木の町熊野木工コンクールを開催	7
話題を追って	紀州鉾山の隧道跡を活用したきのこの栽培	8
話題を追って	三重の森林と木づくりフェアを開催	9
話題を追って	地域に根づいた、全職員参加型の大紀森林組合	10
団体情報提供	「三重の木」認証材でつくる住宅展を開催	12
連載	頑張ってます!	13
連載	この人に聞く ～第36回・若林征男さん～	14
技術情報	材面割れと内部割れの少ない乾燥スケジュール	16
木材市況	県内木材市場市況の概況 (10月)	18
行事予定	森林・林業関係行事予定表	18

平成23年台風12号による林野関係の被害と対応について

環境森林部 森林保全室

台風12号による災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

台風12号による豪雨は、県南部を中心に長時間にわたったことから、総雨量が1,500mmを超えた地域があり、平成16年台風21号災害に匹敵するほどの甚大な被害が発生しました。

残念ですが、この台風により、不幸にも死亡2名（御浜町、紀宝町）が確認されており、また、行方不明者1名（紀宝町浅里地区）、負傷者15名の人的被害がありました。

住宅被害も甚大となっており、全壊55棟（紀宝町30棟等）、半壊299棟（熊野市290棟等）、一部損壊53棟（津市17棟等）、床上浸水1,683棟（紀宝町1,121棟等）、床下浸水830棟（熊野市296棟等）でした。

林野関係の被害としては、127箇所（山腹崩壊等）が熊野市等9市、大台町等7町で発生し、その被害額は約99億4,160万円となっています。



熊野市飛鳥町小阪地内

林道施設の被害は、熊野市等10市、大台町等8町と広範囲におよび、306路線907箇所（箇所）で被災があり、その被害額は約36億58万円となっています。



津市美杉町石名原地内



林道春日谷線（大台町）

治山施設の被害は、松阪市等8市、大台町等5町で59箇所発生し、その被害額は、約5億6,680万円となっています。

山地災害や林道施設など林野関係の被害については、治山激甚災害対策特別緊急事業、災害関連緊急治山事業、治山施設災害復旧事業、林道施設災害復旧事業などを活用し、復旧していくこととしています。

また、台風12号では、山腹崩壊等による流木が河川の氾濫や落橋などの原因にもなっており、これらの被害を軽減するため、さらに治山対策や間伐等の森林整備を推進し、災害に強い森林づくりを進めていくこととしています。

被害額などの数字は、10月上旬までの把握分であり、今後変化することがあります。



大台町岩井地内

亀山市立関中学校が農林水産大臣賞を受賞

～まちなみと調和した木造校舎の整備～

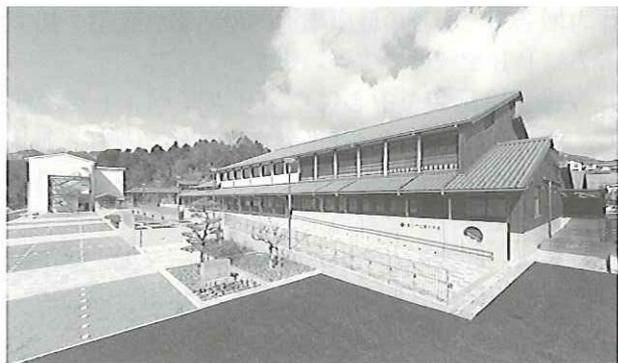
森林・林業経営室 河南 佑 磨

◆はじめに

木材利用推進中央協議会（並木瑛夫会長）の主催する平成23年度木造施設普及コンクールにおいて、亀山市立関中学校が農林水産大臣賞を受賞し、7月26日に木材会館（東京都江東区）で表彰されました。

同協議会では木材利用分野の拡大や特色ある木材利用に寄与する木造施設を設置した主体を表彰することにより、木材利用の推進に資するため毎年「木造公共施設普及コンクール」を開催しています。

今年度は応募総数112件の中から最優秀の農林水産大臣賞として亀山市立関中学校が選ばれました。



◆施設整備の経緯

旧校舎が耐震調査の結果、補強工事を実施しても地震に耐えられないことが判明したため、改築工事を行うことが決定されました。

関中学校は、鈴鹿国定公園に隣接し、重要伝統的建造物保存地区に指定されている関宿に位置しています。こうした背景から、「まちづくりとの調和」、「木のぬくもりを感じる校舎」をコンセプトに校舎が建築されることになりました。



◆施設の特徴

改築校舎は教室棟と管理棟の2棟で構成されており、2つの棟の間は関宿の街道をイメージした中庭が通っています。昇降口は鉄骨造ですが、表面には木材を活用しており、両サイドから自然採光をしていることから、全体的に明るい空間となっています。

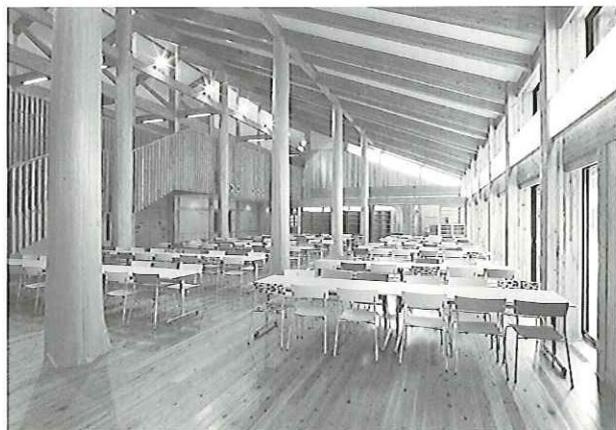
また、学校施設の構造材には準耐火性能が求められるため、燃えしろ設計が採用されています。

◆地域材の利用

床材や垂木などには県産材、梁には国産のカラマツ集成材が使用されるなど、木工事については全て国産材が利用されています。とくに校内にある吹き抜けの多目的ホールには、地元の山で伐採した樹齢100年を超えるスギの丸太が柱として8本使用されており、シンボリックな役割を果たしています。

◆木造校舎の魅力

当初に意図していたコンセプトのとおり、町の景観に溶け込んだぬくもりのある木造校舎が完成しました。校舎全体に漂う暖かくて落ち着いた雰囲気から、生徒たちの評判も上々です。こうしたソフト面での価値が木造施設の大きな魅力といえるでしょう。



<施設概要>

構造・規模 木造一部鉄骨造 地上2階
延べ床面積 2628.99㎡
工期 平成21年6月～平成22年3月
工事費 1,083,317千円
県産材利用量 462.19㎡

津市森林セラピーの取り組み

津市美杉総合支所 主幹 脇田 久三

平成23年10月18日でオープン2周年を迎えた、津市森林セラピー基地「健康の郷・美杉～都市近郊の癒し空間～」の、これまでの取り組み状況等を紹介します。

当森林セラピー基地は市の西南端に位置し、市の面積711平方kmの約3割を有する広大な美杉地域(旧美杉村の地域)にあります。

森の癒し効果の実践とウォーキングによる健康増進を目的に、当地域の約9割を占める森林や歴史資源など「地域にあるもの」を活かした、地域づくりの一環とした取り組みを進めています。

森林セラピー基地とは、昭和末期から森の中にいると何か森に癒されるような感覚があるとして、「森林浴」という名称で親しまれてきましたが、その森の持つ癒し効果を科学的に解明し、一定の癒し効果の根拠をもって、近年のストレス時代に生きる我々の「こころ」と「からだ」の健康増進につなげ、同時に、森林環境の保全や山間地域の活性化にもつなげて行こうという取り組みです。

津市の森林セラピー基地は、第3期森林セラピー基地として、8つのセラピーロード及びロード周辺の森林や既存の公共施設などを平成20年4月に森林セラピー実行委員会(現在、NPO法人森林セラピーソサエティへ認定機関が移行)から認定を受け、平成21年10月18日グランドオープンいたしました。

現在は、地域主体の取り組みとして、美杉地域の住民からなる「津市森林セラピー基地運営協議会」の管理運営により、様々な取り組みを展開しています。

グランドオープン後、本年10月18日でオープン2周年を迎え、この間、各ロードを利用したウォークイベントを精力的に開催し、津市内はもとより、県内各地や県外からの参加者も増え続けている状況です。

また、平成23年は国連が定める「国際森林年」にあたることから、平成23年10月1日(土)～2日(日)にかけて、記念ウォーキングも開催しました。

セラピーロードは、一定の整備がようやく整いつつありますが、本年度は新たに4つのセラピーロードが追加認定される予定です。

また、健康増進基地として、癒し効果の実践のほか、ノルディックウォーキングによる運動としての

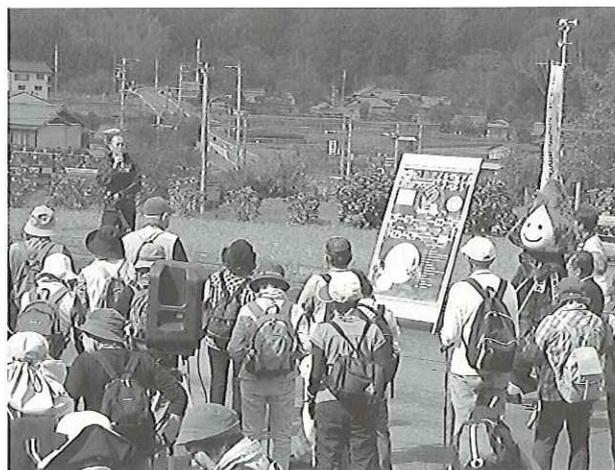


国際森林年記念ウォーキング

体力増進など心身の健康増進への活用を企業や都会の方にPRを続けてきています。

今後も協議会を中心にウォークイベントを開催し、津市森林セラピー基地の良さをもっともっとPRしていき、たくさんの人が自然いっぱいの山里に来ていただきたいと思っています。

11月は、紅葉のきれいな季節です。一度、津市森林セラピー基地「健康の郷・美杉～都市近郊の癒し空間～」へおでかけください。



2周年記念事業の開催セレモニー

お問い合わせ先

津市森林セラピー基地運営協議会

TEL 059-272-8082

FAX 059-272-1119

パンフレット、イベント情報等の資料も送付いたします。
お気軽にお問い合わせください。

多気町に三重県産材を使った老人福祉施設が完成

～施設の利用が進んでいます。～

林業普及指導員 北川 雅 義

平成23年3月、多気郡多気町に三重県産材を使用した地域密着型の特別養護老人ホーム「ときだの里」(岡井功理事長)が完成しました。

設計をキハタトレーディング(松阪市)、製材・乾燥を西村木材店(松阪市)、施工を北村組(松阪市)が担当するなど、いずれも地域の企業が関わっています。

完成後、半年あまりが経過して、利用者が増えてきているところですが、岡井理事長の木造に対する思いや施設で働く人たちの声も交え、改めて施設の紹介をしたいと思います。



岡井理事長(施設の前で)

この特別養護老人ホームは木造平屋建て延床面積1,168㎡で、構造材に三重県産材が約450㎡使用されています。

施設の利用者が使用する3つの居住棟はヒノキの丸太組構法(ログハウス)で、事務室などがある共用部分はスギの在来軸組工法で建てられています。丸太組構法と軸組工法という異なった構造の間はエキスパンションジョイントという方法で接続されています。

ログハウス部分に使用されたヒノキは、新生産システム中日本圏域の大規模工場を持つ西村木材店が製材・乾燥を行いました。同社の高温蒸気式・高周波複合式乾燥によりログハウスに適した材が供給されました。

また、共用部分に使用されたスギは、キハタトレーディングが県内の自社山林から伐り出してストックしてあった大径長尺材を製材・乾燥して利用したものです。

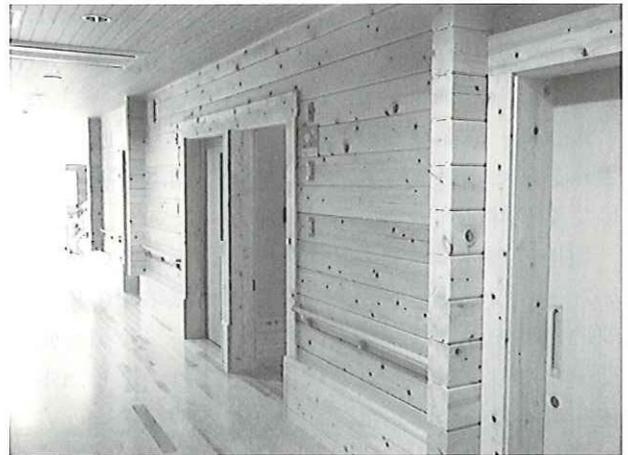
ログハウスが専門のキハタトレーディングでは、当初、共用部分には太いスギ丸太を使用する考えていたそうです。ところが、特別養護老人ホームで防

火上必要となる45分準耐火構造の場合、木の部分を「あらわし」とするには木部を「もえしろ設計」とする必要があり、JAS製材品が必須となるため、共用部分は角材仕様に変更せざるを得なくなったとのことです。

しかし、45分準耐火構造を取得した丸太組構法建築物は実例が少なく、特別養護老人ホームでは初めてのケースであり、このことが国土交通省の「平成22年度木のまち整備促進事業」の採択理由の一つにもなりました。

一方、この施設では着工から完成までが非情に厳しいスケジュールであったため、木材の調達と加工に大変苦労したということです。

公共建築物等木材利用促進法が施行され、これから建築数の増加が期待される大型木造建築物ですが、材料調達や加工については今後の課題となる可能性があると思われます。



居住棟内部(角ログが使用されています)



天井が高く広々した共用部分

鉄骨造で建てられることが多い特別養護老人ホームをなぜ木造で建てたのかについて理事長に尋ねると、「シックハウス対策などで木造に興味はあったが、西村木材店の製材工場や新潟県の木造施設へ見学に行った時、そこで木の暖かみや木の香りを実感することができ、木には何か癒しの効果があるように感じた。また、地域の木材を使うことが、地域の



施設の利用風景

森林を守ることにつながるということや二酸化炭素の削減につながるということを知り、ぜひとも木造で施設を作りたいという思いが強くなった」ということでした。

ログハウスは木造の中でも特に木材の使用量が多く、鉄骨造に比べて予算が多くかかるのが一般的です。この施設の場合も予算的に厳しく、理事長も一時は木造を諦めようと思ったそうですが、木のまち整備促進事業に採択されたので「思い切ってログで建てました」と笑顔でおっしゃっていました。

気になる木造化の効果ですが、理事長は「1年間経過していないので施設そのものについてはまだ何とも言えないが、他の施設から移ってきた利用者でも状態が安定しているように思う」とのこと。

また、以前は従来（鉄骨）の施設で働いていた従業員さんも「木の良い香りがする」と感想を述べていました。

話題を追って

学校林を活用した林業体験学習 ～松阪市立大河内小学校～

林業普及指導員 北川 雅 義

平成23年9月16日、松阪市立大河内小学校6年生16名が小学校の学校林で林業体験学習を行いました。

当日は、みんながヘルメットをかぶり、腰にノコギリをぶら下げた一人前の格好で、山道を約30分歩いて学校林に到着しました。

現地で森林・林業や間伐の働きについての話を聞いた後、松阪林業研究会や大杉谷自然学校のスタッフの指導を受けながら、間伐木をロープで引っ張って倒したり、ノコギリで枝を切ったり、倒した木の皮を剥いたりしました。

慣れない作業に最初は少しとまどっていましたが、間伐したヒノキの良い香りが漂う中、みんな一生懸命に作業をしていました。

作業の後は、倒した木を薄く輪切りにしてもらい、おみやげに持ち帰っていました。

この学校林は、昭和18年当時、将来ここから切り出される木を使って小学校を建替えるため植林されたものだそうです。

しばらく手入れが滞っていましたが、平成18年にPTA等の協力により整備が行われ、この林業体験学習が始まりました。

子供たちが自然の中で働くことの良さを実感できるよう、この体験学習を継続していくことが期待されます。



この木を倒しています

みんなでロープを引っ張ります。倒れてきた～



慣れないノコギリを使って枝を切ります

尾鷲ヒノキを都心に供給！

～紀北町が東京都港区と国産材供給協定を締結～

森林・林業経営室

川波 寛

東京都港区は、国産材の需要拡大と低炭素社会実現に向けた取組「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」を10月1日からスタートさせました。

紀北町では、既に7月に港区と地域材の供給協定を締結し、この取組を通じて、町の林業活性化を目指しています。

港区が進める「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」は、港区内に延べ5,000㎡以上の建築物を建てる場合、この制度に基づき、区に申請し、木材使用量に応じたCO₂固定認証を受け取ることになります。

また、木材の目標使用量は床面積1㎡につき0.001㎡を最低基準としており、使用量が増えると認証のランクが高まるといったインセンティブ措置も執られています。

紀北町では、10月13日から14日に「港区立エコプラザ」で開催された「制度説明および製品展示相談会」に出展し、紀北町で生産された、F S C 認証材

などの製品をPRしました。

来場者からは、F S C 認証材の入手方法についてなどの質問が寄せられていました。

担当者は、紀北町内の適正に管理された森林から生産された木材について、首都で情報発信し、利用されていくことで紀北町内の林業・林産業の活性化に繋げていきたいと話しています。



木の町熊野木工コンクールが開催されました

熊野市駐在 林業普及指導員 西井孝文

平成23年9月24日、25日の両日、熊野市文化交流センターにおいて、熊野林業会主催の「木の町熊野木工コンクール」が開催されました。

このコンクールは、木に親しみ、地域の主要産業である林業に理解を深めてもらおうと毎年この時期に開催されています。

今年は台風12号の影響で予定より2週間遅れの開催となりましたが、熊野市内の小中学生を中心に、イスや本箱をはじめ、貯金箱やポスト等、昨年より多い255点の作品が出品され、盛況なコンクールとなりました。



様々な作品が並びました



小学生の部1位の作品

審査は、熊野市長、県議会議員ら6名により行われましたが、中には大人顔負けの力作もあり、いずれも甲乙つけがたい審査となりました。

小学生の部1位は、井戸小学校6年生の前川泰基君の「茶台」、中学生の部1位は、有馬中学校1年生の山城優莉さんの「いかだ流し」でした。

優秀な作品は、県の木工コンクールに出品される予定です。

紀州鉾山の隧道跡を利用したきのこ栽培に取り組んでいます

熊野市林業振興課 浜中直人

熊野市紀和町は古くから銅の産地であり、1938年に開通した紀州鉾山のトロッコが採掘された鉾石を板屋まで運んでいました。しかしながら国際銅価の低迷とコスト高により1978年に閉山となり、しばらくして列車の運行も中止されました。

この路線のほとんどが隧道で、1989年より路線の一部で観光用のトロッコ列車が運行されていますが、残りの隧道の有効活用が長年の課題となっていました。



湯ノ口温泉駅側の6号隧道を利用

この隧道の特徴として、夏場でも気温が15℃程度と涼しく、また湿度も高いことから、きのこ栽培に活用できないかということで、平成22年の秋より林業普及指導員の指導により、いくつかある隧道の環境調査とハタケシメジの菌床埋め込み栽培に取り組みました。その結果、比較的良好な発生が見られ、また自然栽培に比べて長期間の発生が可能なが示唆されました。



隧道内での栽培状況

しかしながら、ハタケシメジの発生適温は17℃と他の栽培きのこに比べて高めであり、気温の低下とともに発生が休止するため、平成23年度事業により、湯ノ口温泉側の6号隧道を利用して、他のきのこも含めた栽培試験に取り組みました。

今年の4月より毎月シイタケ、ナメコ、ハタケシメジの菌床を導入し、発生量の調査を開始して半年が経過していますが、シイタケ、ナメコについては安定した発生が確認されています。ハタケシメジについては、発生温度の影響もあり、春には収穫が遅れるものの7月以降は発生が安定してきています。薄暗い環境下での栽培ということもあり、いずれのきのこも通常の栽培に比べて色白で、特徴あるものとなっています。



ハタケシメジの発生状況

また、発生した子実体の重金属含量を調査しましたが、いずれも検出されず安全性も確認されています。

冬場になるにつれて隧道内の温度が低下し、湿度も下がることから、いずれのきのこも発生が遅れたり、発生量が低下すると考えられます。今後も引き続き発生調査を行い、年間を通じたきのこ栽培システムを構築する予定です。

収穫したきのこは商品性の調査を行うとともに、地元食材としての利用を検討します。さらに、熊野地鶏やキジ等の地域特産品との融合による新商品の開発も計画しています。

空調施設栽培とは異なり、エネルギーを使わないきのこ通年栽培として定着することを期待しています。

「三重の森林と木づかいフェア」を開催しました！

～森林フォーラム2011「市民と森林をつなぐ国際森林年の集いin三重」～

環境森林部 森林・林業経営室

三重県では10月を「三重のもりづくり月間」と定め、県民の皆さんが森林に対する理解を深めてもらう機会をつくるため、様々なイベントを開催しています。

今年は、国連によって定められた「国際森林年」の記念事業として「三重の森林と木づかいフェア」を開催しましたので紹介します。

平成23年10月15日(土)に三重県熊野古道センターにおいて、「三重の森林と木づかいフェア」を開催しました。

前日からの雨模様により開催が危ぶまれましたが、開催当日の朝には雨が上がり、主催者としてはほっと一息ついたのも束の間、再び開会式から雨が降り出し、雨の中でのイベントとなりました。

しかし、あいにくの雨の中にも関わらず、1,800名の方に来場いただくことが出来ました。



会場の様子

10時からの開会式では、鈴木英敬知事の挨拶の後、地元市長である岩田昭人尾鷲市長より挨拶をいただき、各ブースを見学していただきました。

「尾鷲ヒノキで東北震災地へ応援メッセージを送ろう！」のブースでは、尾鷲ヒノキの入浴木に激励のメッセージを書いていただきました。

室内の会場では、尾鷲ヒノキで作るマイ箸作りや環境影絵の上演があり、子どもから大人まで多くの方に参加をいただきました。

屋外のブースでは、木工体験やきのこの販売、地元の飲食関係の出展があり、家族連れなどで楽しんでいただきました。



東北震災地への応援メッセージを書く岩田尾鷲市長(左)と鈴木知事

◆森林フォーラム2011

午後1時30分からの「森林フォーラム2011」では、NPO法人共存の森ネットワーク事務局長の吉野奈保子さんのコーディネートのもと、直木賞作家の三浦しをんさんと京都大阪森林管理事務所の白木投和さんにより、林業を通じて成長する若者を描いた小説「神去なあなあ日常」を話題にした林業関係の対話が行われました。



「森林フォーラム2011」会場

◆最後に

このフェアの開催に際し、多くの方々にご支援・ご協力をいただきましたことに対し深く感謝を申し上げます。

今後とも、多くの県民の皆さんが森林・林業に対する理解を深めていただくよう、森林や木にふれあう機会を設けていきますので、ご参加の程をよろしくお願いいたします。

林業事業体を訪ねて①

地域に根づいた、全職員参加型の大紀森林組合

三重県林業技術普及協会 佐々木 太

発足20周年を迎えた大紀森林組合

森林・林業再生元年に当たり、森林組合等の林業事業体の役割が重要になると期待されています。

このことから、県下の森林組合等の林業事業体を訪ねて組合長をはじめ職員の皆様と意見交換し、林業事業体の活動状況等を順次紹介していきます。

第1回として、今年、発足20周年を迎えた「大紀森林組合」取材しましたので、筆者の視点から特徴的な取り組み、活動状況等を紹介します。

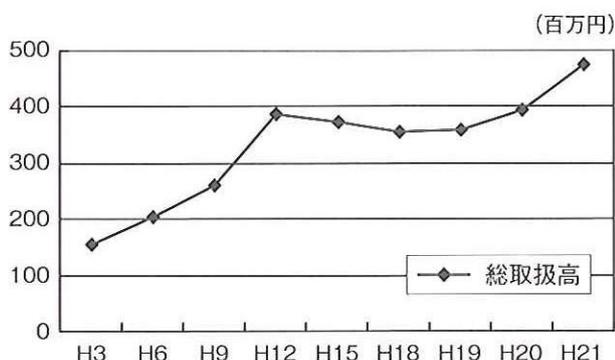
1. 大紀森林組合の概要

～成長を続ける事業展開～

大紀森林組合（以下「当組合」という。）は、平成3年4月に旧度会三部（大宮町・紀勢町・大内山村）の各組合が合併し、誕生しました。今年で20周年を迎え、順調に成長してきています。

当組合は、大紀町全域をエリアとし、組合員は約2千人でその所有森林面積約1万7千ha（カバー率81%）を基盤として、組合長のもと1室4課体制（職員数46名）で森林整備等の事業を積極的に展開しています。

発足後、約20年間の組合事業総取扱高の推移は下表のとおりとなっており、平成21年度の取扱高は約4億8千万円で、発足時約1億5千万円の約3倍以上となり、毎年、利益を上げ、着実に業績を伸ばし成長を続けています。



大紀森林組合の事業総取扱高の推移

2. 森林整備を中心とした事業展開

～施業集約化、機械化、路網整備に力点～

当組合の主体は、森林整備事業（間伐等森林整備面積は約800ha）で、事業総取扱高の8割を超えるシェアを占めています。近年、低コスト化への取り組みとして施業の集約化、機械化、路網整備に積極的に取り組むとともに販売部門（素材生産）にも力を入れ、年間取扱量は5千㎡を越えています。（参考、全国の素材生産事業体の83%は、生産量が5千㎡未満です）

なお、森林経営計画については、今まで取り組んできた集約化団地30団地を当面の目標に、集落座談会など開催し、組合員に理解を求めています。

部門	指導	販売	加工	森林整備
大紀	1	16	-	83
三重県	1	12	20	67
全国	1	25	13	61

森林組合の事業割合(%) (H21年度)

3. 地域の多様なニーズに応える森林組合

～森林作業なら森林組合へ依頼が定着～

当組合では、組合員の要請に応え森林管理、森林整備、素材生産等を通じ地域の山づくりを推進しています。

最近では、組合員等地域からの要望が多様化しており、人家裏の危険木の伐採、道路・人家等への支障木の伐採、送電線下の木の伐採、人家周辺の樹木の剪定、草刈り等々の作業依頼が増加傾向にあり、平成23年度は、上半期ですでに数十件の依頼があり昨年の倍増のペースで進んでいます。

特に、人家裏の危険木の伐採が増えてきているところですが、これは、人家周辺の植栽木が大きくなり暴風雨による家屋への倒木被害を受ける恐れがあるため、防災の観点から危険木の伐採や枝払いの作業依頼をされる方が多くなってきています。（服部課長は、地域住民から要請の強い人家裏の危険木の伐採への助成制度の創設を強く訴えていました。）

このように森林、木に関する作業のことなら、森林組合へお願いすればどんなことでも引き受けてくれると言うことが地域で定着してきており、山村地域を守る重要な事業体として期待され、地域に根づいた事業展開をしています。



人家裏の危険木伐採施業後状況



人家裏の伐採状況

4. 安全指導対策室の設置

～労働災害ゼロを目指して～

当組合は、近年、若い技術職員が増えてきたこともあり、労働災害に対する安全意識を高め、全職員一丸となって労働安全活動に取り組むため、平成19年に安全・指導対策室を設置し、職員2名を配置しています。

具体的には、安全衛生委員会、安全衛生全体会議、災害防止対策会議を定期的に関催し、労働災害ゼロをめざし、安全教育、安全パトロール、ヒヤリハット対策、安全用具の貸与など活発な活動を展開しています。(対策室を設置し活動しているのは県下の森林組合では初の試みではないかと敬意を表します。)

5. 全職員参加の皆で支える組合経営

～組合経営情報の共有化と人材育成～

当組合は、全職員(事務、技術)が、組合経営・事業活動等に関するあらゆる情報を共有化し、連帯感を持ち組合活動にあたるため様々な取り組みを展開しており、全職員参加の全員野球の森林組合です。たとえば、事務職員、技術職員お互いの職種の垣根を取り払い、色々な仕事ができるような体制をとっています。

毎朝、原則、全職員が事務所に集合し、体操・朝礼・ミーティングを実施するとともに、毎月、職員全体会議を開催し、事業報告、事業計画、会議・研修会参加の成果報告等々について意見交換し、全職員が発言できる体制など人材育成にも力をいれています。

6. 今後の方向について ～地域とともに～

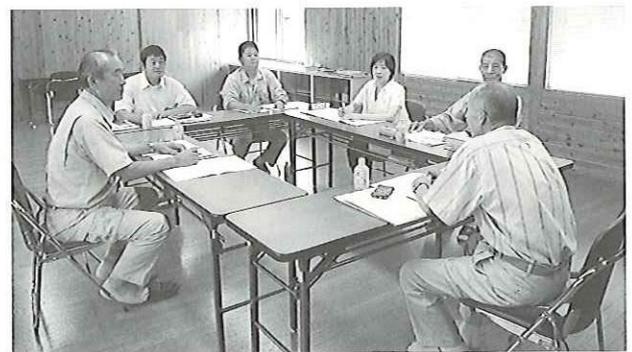
未来に贈る森林づくり

大紀森林組合の今後の方向

森林・林業再生プランへの対応と地域の人工林の成熟化および社会環境の変化を背景に

- 地域の多様なニーズへの対応
- 提案型集約化施業(森林経営計画作成)およびカスケード利用の推進
- 更なる人材の育成と技術の継承

- 出席者の皆様に今後どのような森林組合にしたいかを語っていただきましたので紹介します
- *山添組合長は、将来に亘り「人が育つ」環境作りと更なる地域に根ざした信頼される組合を目指す
- *近藤参事は、労災ゼロの組合を目指したい。
- *岡田副参事は、地域における森林・林業の真の担い手として評価され信頼される組合になること
- *服部課長は、低コスト化・提案型集約化施業などを進め、組合員に還元できる仕組みづくり
- *特に女性職員の久保課長(総務、会計、組合だより、ホームページなど広報担当)は、46名の全職員とのふれあい、つながり等が大切であると強調するとともに、蜂のアレルギー体質をはじめとする健康管理を行い、このことが職員の安全な仕事につながると語っていたのが印象的でした。



意見交換等取材の様子…大紀森林組合にて

終わりにあたり、取材に長時間ご協力いただいた山添組合長、近藤参事、岡田副参事、服部課長、久保課長の皆様ありがとうございました。感謝申し上げます。(文責・佐々木 太)

『「三重の木」認証材でつくる住宅展』を開催して

三重県木材協同組合連合会 「三重の木」アドバイザー 山田 桃子

◆はじめに

木造住宅の約8割を占める木造軸組工法住宅のうち、戸建て住宅の約半数は中小住宅生産者により供給されており、「三重の木」の需要拡大を図る上で、地元の工務店等は重要な役割を担っています。このたび、「三重の木」認証建築業者に参加を呼び掛けて『「三重の木」認証材でつくる住宅展』を開催しましたので、その概要を報告します。

◆イベント開催の経緯

県木連は毎年、中日アド企画が四日市ドーム等で行っている「住まいと暮らしの総合フェア」に出展してきましたが、ショッピングセンター等で開催してはどうかとの県の提案もあり、県下の3ヶ所で今回の住宅展を企画しました。なお、3会場のうち鈴鹿で予定した住宅展は台風12号の影響で11月に延期しました。

◆両会場での住宅フェアについて

熊野古道センターとイオン明和の両会場の出展者の皆様には「三重の木」を使った家づくりに関するパネルや模型等を展示していただきました。県木連は集客のためと訪れた人に木材に触れ合っていただく機会をつくるため、木工キットを用意しました。また、木工参加者全員に出展者の各ブースに掲示しました「木や森のクイズ」に答えてもらうことにしました。クイズに答えるため、木工参加者は各ブースを回りますので、クイズがきっかけとなって出展者とのコミュニケーションが生まれました。皆さん、工夫をこらして展示していただきましたので、木工参加者だけでなく、買い物に来た方にも興味を持って見ていただけましたし、夏休みの土日ということもあり、会場は賑わいました。



熊野古道センターでの様子



イオン明和での様子

◆住宅フェアを振り返って

今年の5月から、この住宅フェアを計画してきましたが、会場手配から会場設営までの全てを行うのに必死でした。私にとってもとても良い経験で、このようなイベントを成し遂げることができましたのも、たくさんの方々のご理解とご協力が得られたからであり、出展していただいた皆様に感謝しています。私の「三重の木」アドバイザーとしての仕事は今年度末で終了しますが、このような方たちが「三重の木」認証業者であるならば、これからもきっと「三重の木」認証材の住宅が愛され、世間に広まっていくと思いますし、そうなることを願っています。

◆出展業者さんからのご意見・ご感想

今回のイベントに出展していただいた業者の皆様アンケート方式で出展した感想を伺いました。多くの方が、「このようなイベントはすぐに成果があるわけではないが、出展することにより地域の一般消費者方に自社の取組みを知ってもらうことができるし、お客様との接点になる」と答えてくれました。すぐに仕事の受注につながることは難しいが、このようなイベントを続けることにより、徐々に「三重の木」が認知されていくと皆様感じられたようです。出展した事業者の皆様は、「このようなイベントに参加したことで、沢山の出会いがあった」、「同業他社との交流が深められ接点ができた」など、人と人の出会いを高く評価されています。この様なイベントを毎年続けていくことが大切であり、横と横との繋がりができることで大きな力が発揮できると思います。今回のイベントを無事終えることができ、本当にありがとうございました。

頑張ってます！ ～木材と建築と、天災と私～

尾鷲ひのきプレカット加工協同組合 理事長 柴田 栄一

今年度「尾鷲ひのきプレカット加工協同組合」の理事長に就任した柴田栄一さんに、日頃の森林への思い、木材への思いをつづっていただきました。



理事長 柴田 栄一さん

◆今年起こった天災

プレカット工場が出来て15年が経過しました。

その間、二級建築士の資格も取得して耐震構造について毎日のように考えるようになりました。

今年に起こった災害、雨で山が崩れる、風で木が倒れる、地震で家が傾き、津波で家が流されるといった映像を歯がゆい思いで見つめています。大雨などの災害は、地球規模の環境の変化が起因しているとも言われています。

道路を造るために木が切られ、コンクリートを製造するために山が削られ、「地球温暖化」「ヒートアイランド現象」を巻き起こしていると言われていますが、山師さんがオノで木を倒し、大工さんが、ノコ、ノミ、カンナで家を建てていた時代ならそんな言葉すらなかったでしょう。

森林整備のためにも大型機械が使われ、木材の加工のためにも電気が使われる。

どこでどうつながっているかは解りませんが、どうやら人間の編み出した機械類は、すべて地球環境に悪影響を与えているようです。

そう言う意味では、私たちのプレカット工場も地球温暖化に悪影響を及ぼしているかもしれませんが。

最近、亡くなった親から預かった少しの山に、思い出したかのように下刈りに行ってきました。

遠い場所なので、頻繁には行けませんが、ほっておくと山の神様に怒られるような気がしますし、森林は、空気だけではなく海の水にも影響を与えているので海の神様にも怒られるかも知れません。

帰り道、「結局人間は自然に帰り、木材を人力で伐り出し、ノミで加工しなければいけないのかな、でも今更そんな時代には戻れないしな。」と、取り留めのないことばかり考えていました。

…そんな私にできること…

「今年も庭に椿を1本植えました。」

◆今後の建築

先日、同級生達と話をする機会がありました。

みんな44～45歳になるので、すでに家も建てた人達ばかりですが、「どこで、どんな家を建てたの？」と訪ねると、ほとんどが大手住宅メーカーの名前を答えました。

理由を聞くと、「地元の大工さんが尺貫法で建てる住宅の廊下はとても狭くて使いにくいので、メーターモジュール（メートル法）で家を建ててほしいと頼んだが聞いてくれなかった。」という理由でした。プレカット材は、当然メートル法を採用しているため問題ないですが、大工さんの多くは、未だに尺貫法で話をします。

また、森林で作業する人達も、面積や体積を町歩や石で表現することが多いですが、これも若い世代の人にとってはわかりにくい単位だと思えます。

このため、森林づくりを考える上では、木材を利用する住宅の仕様まで考える必要があります。

たとえば、ヒノキは、土台や柱を取るためには末口18cmくらい、長さは3m、6m、天井を高くするためには、少し長めに必要になるかも知れません。

大工さん達やプレカット工場側もメーターモジュールの家を当たり前で造っていくためには、どういった部材が必要で、どのような木材を生産して欲しいかを山側の人達に訴えていく必要があります。

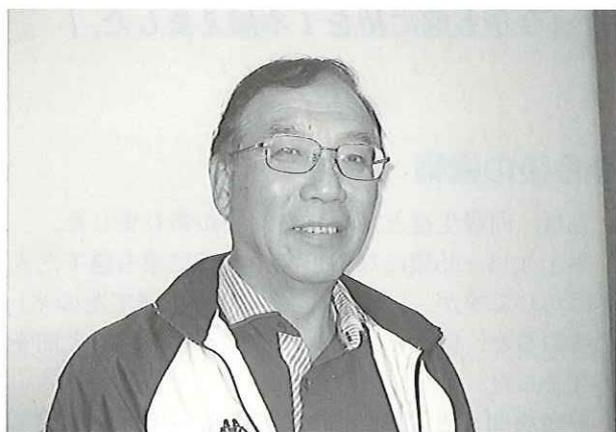
…そんな私にできること…

「メーターモジュールの住宅プランを提案します。」

この人に聞く ～第36回・若林 征男 (わかばやし いくお) さん～

聞き手：津市駐在 林業普及指導員 鎌 田 康 宏

今回登場していただくのは、「学びの森 川口演習林の会」の会長である若林征男さんです。若林さんは、津市白山町地内にある約10haの学校演習林において、維持造成のお手伝いをしながら、青少年を中心とした森林・林業学習に関するボランティア活動を行っています。それでは、若林さんよろしくお願ひします。



若林 征男さん

Q 最初に「学びの森 川口演習林の会」設立の経緯を教えてください。

A 川口演習林は、津市白山町の川口区が所有していた森林の一部を昭和60年に三重県立久居農林高等学校が演習林として活用するため購入したもので、当時は雑木林であり、生徒たちが授業やクラブ活動で地拵えや植林等の整備を行い、その後、地域住民への委託作業と併せて維持・管理を行って来ました。

しかし、生徒たちの実習活動や地域住民への委託作業だけでは、思うような手入れが出来ず、演習林としての機能が低下していました。

また、学校では、この演習林を地域の小中学生など自然環境学習の場として提供するなど、未来の森林の利用法について、様々な取り組みのできる実験の場として、活用していきたい意向もあり、学校だけの活動に限界を感じているようでした。

そこで、当校卒業生であり、これまで様々なボランティア活動をしていた私に、当時の校長先生より協力依頼がありました。

卒業生としての責任感や青少年などに対する森林・林業への関心を高めたいとの気持ちから、引き受けることとなりました。

色んな方々に声を掛け、平成16年3月に34名の会員をもって、第1回設立総会を開催しました。

Q これまでに、どのような活動を行って来ましたか？

A 主に、「作業活動」、「森林環境研修会の開催」、「森林教室の開催」の3本柱で活動を展開しています。

「作業活動」については、演習林の維持管理・整備が目的の活動で、これまでに境界確認・自然観察道の整備・広場造成・下刈・枝打ち・間伐等を実施してきました。

森林環境研修は、会員や久居農林高等学校の生徒を対象に「ミニウインチの架設」、「安全な間伐研修」、「植樹・獣害対策」を開催し、知識・資質の向上に取り組んでいます。

また、森林教室では、「緑の少年隊」、「スポーツ少年団」を対象に参加を呼びかけ、クイズ形式で森林・林業の体験などを行っています。

これまでの6年間で、会員内外1,000人以上の方に、ご参加いただいております。



大勢が参加した森林教室の集合写真

Q 森林・林業のボランティアで重要なことは何ですか？

A 今の状況では、森林・林業だけの企画で人を集めることは難しいと感じています。



自由時間に崖を飛び降りる子どもたち

私たちの「学びの森 川口演習林の会」では、森林・林業に関するに加えて、歴史・文化や食などと併せて企画を立てています。

こうしたことにより、森林に全く興味のない方々の参加が期待でき、沢山の方々に本来の森林の姿や重要性を伝えることができるかと思えます。

いかに、沢山の方々に森林へ足を踏み入れてもらうかが大切であり、森林へ来てもらうだけで目的の50%は達成したと考えても良いのではないのでしょうか。

また、児童や青少年を対象にした活動では、子ども目線になることや、思いのまま行動してもらうことを大切にしています。

私たちの森林教室では、子どもや指導者が自由に行動できる自由時間を設けて遊ばせています。

作業道を駆けめぐる子ども、山を切り取ってできた小さな崖でズボンを通り黒にしながら滑り落ちる子ども、チェーンソー・ノコギリを使った実演や年輪の数え方を教えたりする指導者が現れたり、プログラムには無い楽しいひとときの創出も大切にしています。

安全面に過剰になりすぎて、子どもたちの創造性や冒険心を削いでしまったら意味がないと思います。

指導者たちからは、「子どもたちのこんな楽しそうな表情は見たこともない」とよく言われます。自然の中では、子ども本来の姿が伺えるのではないのでしょうか。

大人の都合で子どもたちの行動にブレーキを掛けるとは、こんな姿は見えないでしょう。

Q この「学びの森 川口演習林の会」を通じて、今後やりたいことはなんですか？

A 久居農林高等学校の生徒たちが既に行っている、CO₂調査を行いたいと思っています。

色んな場所で、子どもたちと一緒に測定し、数値化して森林の役割を分かりやすく、楽しく教えていきたいと思っています。

その日の風向きや交通状況により、本当の結果を知ることは難しいと思いますが、子どもの探求心や環境問題・森林への関心が高まればと思っています。

Q 最後に一言お願いします。

A 森林には沢山の教材があります。気温の違いや生物の多様性など街中では体験できない事が数多くあります。

しかし、親御さんには森林へ連れて行こうという意識が少なく、どうしても安全な場所を選んでしまいがちで、そのことにより子どもの探求心や冒険心が薄れていくことが心配でもあります。

大人たちが子どもの持っている探求心・冒険心・自然への憧れを奪っているのではないかと考えるときがあります。

学校やスポーツ少年団での教育・活動も大切ですが、何も用意されていない自然の中で、子どもたちが自由に自らの考えで冒険できる場所や時間の提供も必要ではないでしょうか。

また、現代社会では子どもと大人の接点が少ないうえ、希薄になっているため、子どもと大人の絆を深めていくことも必要と感じています。

私たちの活動は、子どもと大人が協力して「創る」、「遊ぶ」ことにも配慮しています。

こうしたことから、子どもと大人の絆が深まっていきます。そのことが何よりも楽しいです。

数年経った今でも、卒業式に呼ばれたり年賀状を交わしたりなどの交流が続いています。

これは、今でも私の「宝物」になっています。

森林を通じて「青少年の健全な育成」が私の基本理念であります。これからも、子どもの立場に立った活動に心掛け、森林の良さや大切さを伝えながら、青少年の健全な育成活動に取り組んでいきます。

(ありがとうございました)



ヒノキ心持ち無背割り正角材の人工乾燥における材面割れと内部割れの少ない乾燥スケジュール

林業研究所 小林 秀 充

◆はじめに

近年、高温セット法などの高温乾燥技術の普及により、心持ち無背割り材について、材面割れを少なく乾燥することが出来るようになってきました。

しかし、これまで様々な乾燥スケジュールが提案されてきましたが、樹種や乾燥条件によっては材面割れだけでなく内部割れが多く発生することがあります。このような割れは、顧客に対し「強度的に大丈夫なのか？」といった不安を与える材料となっています。

そこで林業研究所では、県内産のヒノキ心持ち無背割り正角材を用い、内部割れや材面割れが少ない乾燥スケジュールの開発に取り組んでいます。今回は高温セット法と中温乾燥または天然乾燥を組み合わせる方法で、温度条件と乾燥時間の異なる5種類の乾燥スケジュールを試行したので、その結果を報告します。

◆高温セット法と材面及び内部割れについて

高温セット法とは、乾燥の初期に蒸煮を行い、その後、高温で乾燥しドラインセットを形成させることで、材面割れを少なくする乾燥方法です。

ドラインセットとは、曲げ木を作る時にも発生している現象です。木材は水分と熱により柔らかくなった状態で外力を受けたまま乾燥すると比較的容易に細胞が変形しそのままの形で固定されます。この時に引っ張りの力がかかっていると通常乾燥するときの収縮率よりも小さくなり、圧縮の力がかかっていると収縮率が大きくなる現象をドラインセットといいます。

通常の場合、木材は表面部分から乾燥が始まります。木材は乾燥すると縮みますが材の中心部は乾燥していないので縮まず、表面部分は縮みたくても縮めない状態になります。このため、表面部分に引っ張りの力が発生し材面割れが発生することになります。しかし、ここでドラインセットにより表面部分の収縮率を小さくすることで、無理に縮まなくてもよくなることから、材面の割れが少なくなります。

しかしながら、高温セット後、高温乾燥を続けると多くの内部割れが発生することがいわれていま

す。これはドラインセットにより表面と内部の乾燥の収縮率に差が生じたためです。表面部分は収縮率をドラインセットにより小さくしたことで、通常の乾燥により収縮したであろう寸法よりもやや大きい寸法で乾燥固定されています。それに対し内部は通常の乾燥の収縮率であるうえ、高温で乾燥させることで急激な収縮が発生するためと考えられています。

◆乾燥試験スケジュール

内部割れや材面割れの発生状況を調べるため、乾球温度（以下DBT）95℃、湿球温度（以下WBT）95℃の蒸煮を8時間、DBT120℃ WBT90℃の高温低湿乾燥を18時間行った高温セットを実施し、その後の乾燥温度を90℃と70℃に下げ、それぞれ120時間（5日間）と168時間（7日間）、168時間（7日間）と216時間（9日間）で乾燥を行い、それに加え天然乾燥を実施しました（表-1）。

なお、仕上げ後の平均含水率は11~16%となりました。

乾燥条件	蒸煮 DBT/WBT	高温低湿処理 DBT/WBT	乾燥 DBT/WBT	試験材含水率% (15本の平均値)	
				乾燥前	乾燥後
A			120hr 90℃/60℃	47.0	14.7
B			168hr 90℃/60℃	48.2	10.9
C	8hr 95℃/95℃	18hr 120℃/90℃	168hr 70℃/50℃	39.4	13.7
D			216hr 70℃/50℃	46.7	14.9
E			天然乾燥	40.7	16.2

注) hr：時間、DBT：乾球温度、WBT：湿球温度

表-1 乾燥試験のスケジュール

◆材面割れについて

乾燥スケジュールと材面割れ長さについて、図-1に示しました。これは、試験材の4面に発生した材面割れ長さを合計したもの（試験材：長さ1.8m幅135mm角）の最大・最小値と中央値を示したものです。細い線が最大・最小値を示し黒い四角は中央値を示しています。

この結果、DBTを70℃、WBTを50℃で168時間乾燥させたスケジュールCの最大値に大きな値がみられますが、今回試行したいずれの乾燥条件においても、中央値は500mmよりも小さく、材面割れは少ないと考えられます。

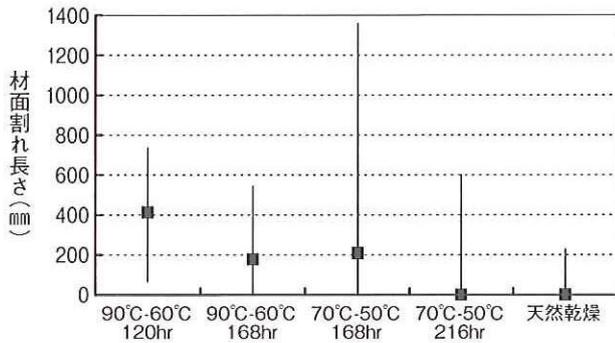


図-1 各乾燥スケジュールにおける材面割れ長さの最大・最小値、中央値

◆内部割れについて

乾燥スケジュールと内部割れ長さについて、図-2に示しました。これは試験材中央部で切断し、断面に現れた割れの長さを合計したものの最大・最小値と中央値を示しました。また、図-3に内部割れの状況を示しました。

内部割れについては、DBTを90℃、WBTを60℃で168時間乾燥させたスケジュールBやDBTを70℃、WBTを50℃で168時間乾燥させたスケジュールC、天然乾燥を行ったスケジュールEの最大値に大きな値がみられましたが、今回試行したいいずれのスケジュールにおいても、中央値は70mm以下と小さく、内部割れは少ないと考えられます。

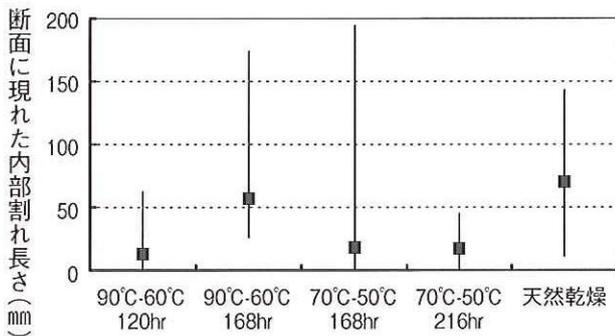


図-2 各乾燥スケジュールにおける断面に現れた内部割れ長さの最大・最小値、中央値

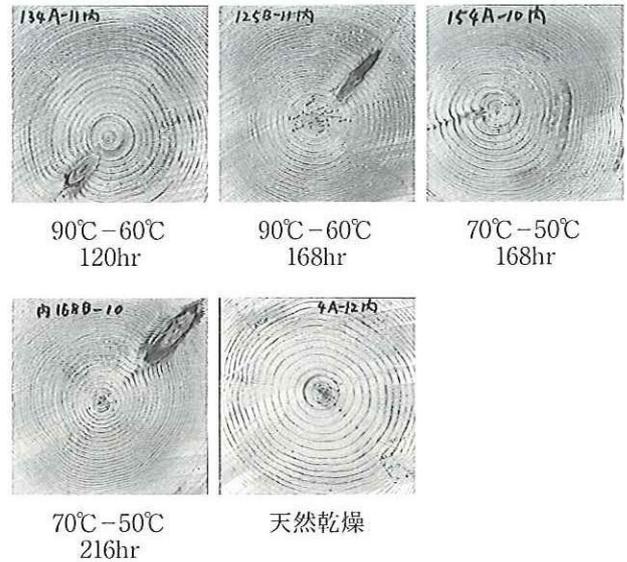


図-3 各乾燥スケジュールの内部割れ状況

◆木口からの距離と内部割れについて

図-4に木口からの距離とその断面に現れた内部割れ長さの変化について示しました。内部割れについては、いずれのスケジュールにおいても木口付近(0~10cm)では多くの割れが発生していますが、木口から20cmぐらいの位置から収束し、少なくなっていることが明らかとなりました。

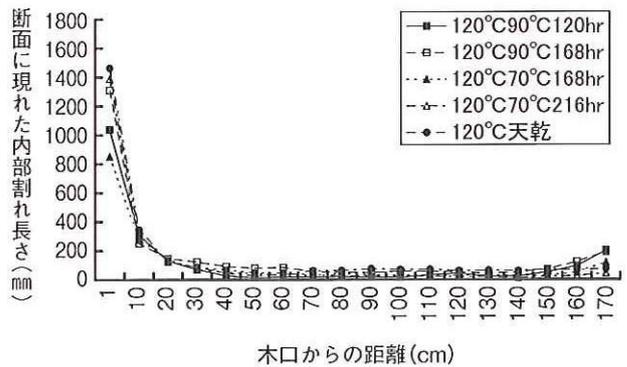


図-4 木口からの距離と各断面に現れた内部割れ長さの関係(平均値)

◆まとめ

以上のように、県内産ヒノキ心持ち正角材(135mm角)で材面割れ及び内部割れを少なく出来る乾燥スケジュールを示すことが出来ました。

今回の結果は研究所の木材乾燥機の試験に基づくものです。このため、木材乾燥機の規模や性能などにより異なる結果となることがあるので、各々の木材乾燥機で行う際は、今回の結果を参考として、乾燥スケジュールを検討してください。

県内木材市場市況の概況（10月）

円/m³

区分	規格			鈴鹿	松阪	伊賀	尾鷲	熊野	
素材	スギ	14~18cm	3m	並	8,000~13,000	9,000~13,000	8,000~13,000	7,000~11,000	6,000~15,000
		20~22cm	4m	並	11,000~12,000	12,000~15,000	11,000~13,000	8,000~12,000	10,000~18,000
		24~28cm	4m	並	14,000~15,000	15,000~17,000	13,000~15,000	8,000~13,000	10,000~20,000
	ヒノキ	14~18cm	3m	並	15,000~23,000	10,000~22,000	13,000~20,000	8,000~18,000	5,000~20,000
		20~22cm	4m	並	18,000~22,000	18,000~22,000	18,000~20,000	15,000~18,000	10,000~20,000
		24cm上	4m	並	18,000~22,000	18,000~25,000	18,000~22,000	16,000~18,000	15,000~23,000
製品	スギ	12×12cm	3m	特1	52,000~55,000	45,000~55,000	45,000~55,000		
		4.5×12cm	4m	特1上小		60,000~70,000	55,000~70,000		
	ヒノキ	12×12cm	3m	特1	65,000~70,000	65,000~80,000	65,000~75,000		
		12×12cm	6m	特1	110,000~115,000	100,000~120,000	100,000~120,000		
		4.5×12cm	4m	特1上小	150,000~200,000	100,000~150,000	110,000~150,000		

(注) 積込料、取扱手数料、消費税は含まれていません。

森林・林業関係行事予定表

平成23年11月			
期 日	行事の場所等	行 事 の 内 容	問い合わせ先
11月23日(水)	三重県民の森	紅葉ハイキング	三重県民の森 059-394-2350
11月27日(日)	三重県上野森林公園	ミニツリー作り	三重県上野森林公園 0595-22-2150
平成23年12月			
期 日	行事の場所等	行 事 の 内 容	問い合わせ先
12月3日(土)	三重県民の森	冬鳥の観察会	三重県民の森 059-394-2350
12月18日(日)	三重県上野森林公園	お正月にあげよう手作り凧	三重県上野森林公園 0595-22-2150
平成24年1月			
期 日	行事の場所等	行 事 の 内 容	問い合わせ先
1月22日(日)	三重県上野森林公園	野鳥観察会～冬編～	三重県上野森林公園 0595-22-2150

財団法人 三重県農林水産支援センター

“農業をやりたい”
“林業に従事したい”
“漁業をやりたい”

〒515-2316 三重県松阪市嬉野川北町530
財団法人三重県農林水産支援センター
担い手支援課

電話 0598-48-1226
FAX 0598-42-8221

そんなあなたをサポートします。

<http://www.aff-shien-mie.or.jp>

林業用苗木の生産・販売

— 緑資源は優良苗木で —

三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 政 伸
津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな
「三重の木」認証材で家を建てよう!

「三重の木」利用推進協議会
TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 黄 瀬 稔
津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-4715

守ろう地球の環境 — 緑と水を育む水源林づくり —

私たちは森林農地整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104 (林業会館内)
TEL 059-246-9111 FAX 059-246-9111



～豊かな森林づくりをめざして～

森林はさまざまな機能を持っています。

- 雨水をすみやかに地中に浸透させて洪水や湯水を緩和します。
- おいしい水を私たちに与えてくれます。
- 土砂崩れなどの山地災害を防いでいます。
- 保健休養の場や教育、野生生物の生息の場として大切な空間となっています。
- 二酸化炭素の吸収・貯蔵の面で地球温暖化防止に貢献しています。

森林を大切に守り、
育てましょう! 社団法人 三重県森林協会

あなたとつくる緑の未来、さわやかな緑の環境づくりをめざす

地球温暖化防止 緑の募金で CO₂ ダイエット!



社団法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100
FAX (059) 224-9118

緑の募金 — 三重緑化基金

突然に起こる災害!

だいじな山のうしろだて 緑の山に愛の手を



入って安心



森林国営保険

お申込みは...



森林組合・三重県森林組合連合会

あなたの森林守ります!!

森林国営保険

加入できる森林は？

樹種・林齢・面積などの制限はありませんが、全く手の入っていない天然林や竹林以外の森林なら、加入することができます。

加入期間は？

1年単位でいつからでもご希望の年数を加入できます。

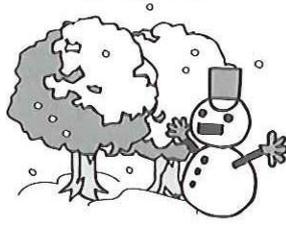
保険金ができるのは？

下記8種類の被害に保険金をお支払いします。

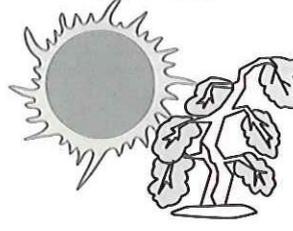
【水害】



【雪害】



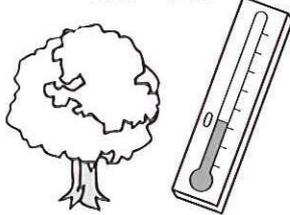
【干害】



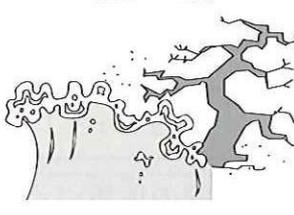
【風害】



【凍害】



【潮害】

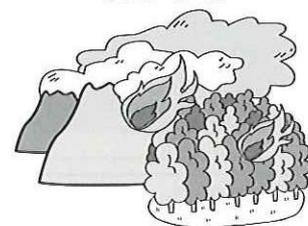


【火災】

(山火事でうけた損害)



【噴火災】



契約手続きは？

三重県森林組合連合会または各森林組合に申し込んでください。一切の手続きをいたします。

1 ha当たりの保険額 (千円) と掛金 (円) 保険期間1年の場合：例

林齢	すぎ		ひのき		その他針葉樹		広葉樹	
	保険額	掛金	保険額	掛金	保険額	掛金	保険額	掛金
1	1,010	3,636	1,010	3,636	800	2,880	580	1,044
5	1,880	6,768	1,880	6,768	1,310	4,716	880	1,584
15	2,730	9,828	2,740	9,684	1,760	6,336	1,170	2,106
30	2,790	8,370	2,990	8,970	1,770	5,310	1,310	1,965
45	2,990	8,970	3,730	11,190	1,780	5,340	1,530	2,295

※1年以上の一括契約の場合は期間に応じ掛金が割引されます。

三重県環境森林部森林・林業経営室・三重県森林組合連合会
(☎059-224-2564) (☎059-227-7355)